

主 題：揺るがされぬ生涯を送るために7
聖書箇所：ピリピ人への手紙 4章4－9節

先日、珍しくあるテレビ番組を見ていたのですが、その番組の特集は「ごま」についてでした。内容は「ごまは健康に非常に良い」というもので、特に、肝臓にすばらしい働きをもたらすと、初めは見るつもりなどなかったのですが、なぜか見ているうちに興味が出てチャンネルを変えることができなくなったのです。その内容は、肝臓というのはある一定の年齢を超えると老化して行き、いろいろな弊害が起り、人間の老化へとつながると言います。そこで、「ごま」にある成分が肝臓の働きを若返らせ、肝臓が活発になると脂肪分がよく燃やされてエネルギーに変わって行く、その他にもいろいろな良いことが起こると、実際に何人かのモニターを使って2週間くらい「ごま」を食べさせてその結果を調べたりしていました。それを見て行くうちにその内容に信頼を置くようになっていったのです。ある人は「ごま」を食べ続けることによってウエストが10センチくらい減ったとか、30代くらいのご婦人は肌の年齢が実年齢よりも若くなったと発表され、これはすごいと思い、次の日、買い物に行ったとき思わず「ごま」を買ってしまいました。それはテレビで見た知識があったからです。「ごま」を食べ続けるとそのような良い効果をもたらすのだと。けれども、それを続けることは多分しないでしょう。皆さんはどうでしょう？このようなことは私たちの日常生活においてたくさんあります。たとえば、お医者さんは患者に喫煙は良くないと言いながらご自分は休憩時間にたばこを吸っています。止めたほうが良いと分かっているのにそれをしない、また、お菓子やスナックを食べ過ぎること、睡眠不足は良くない分かっているのに、どうしてもしてしまう。学生は勉強しなければテストで良い点が取れないと分かっているのにビデオゲームを止めることができない、また、夫であり、父親である皆さん、家に帰ってきて妻と話をしたり、子どもといっしょに遊んだり話をすることが、家族の間で最も大切であると分かっているのに、家に帰って一番気にかかっていることは今日阪神が勝ったかどうかかなのです。「そうした方が良い」と分かっているのになかなかそれをしないのです。私たちはこれが良いと知っていると言いながら行なわれないことがあります。そのために私たちは健康を損なったり、美貌は失われ、学力は低下し、家族の関係は悪い方向へと進んでいってしまうのです。

さらに悪いのは、残念ながら私たちクリスチャンは、聖書のみことばが全く偽りのない真実なものであると言いながら、実際の私たちの日々の生活はまるでそのみことばには力がないかのように生きることがあります。神が言われていることは正しい真実なことであるけれども、私はそれをしたいとは思わない、そのように感じられないと言います。またさらにひどい場合はこのように言うかもしれません。神が聖書の中で言っていることは、今の状況の中で私には適用しませんと。そのように考えていないでしょうか？その人はこのように言っているのと同じです。私はこの試験に合格するために勉強しないといけないと知っているが、ビデオゲームで遊んでいる時間が私には今大切で、勉強することが当てはまらないから勉強しなくてもいいと。その結果は不合格です。勉強しない自分が悪いのです。これを聖書と自分の生活に当てはめたとき、私たちは何と言うでしょう？神が言われることは正しいと知っているけれど、そして、神が命じることを私が行なうことも正しいと知っているけれど、今置かれているこの状況では私はできませんと言う、その私たちは実際に何か災いが起こってくるとき、問題が解決して行かないとき、その非難を神に向けるのです。自分を非難することは決してありません。正しいことを行なわれない自分が悪いと分かっているはずなのに。平安に満ちた生涯、それは私たちにもつことができると神が約束してくださったことです。私たちはそのことをパウロの手紙を通して見てきました。しかし、多くのクリスチャンは今日、この神が約束する平安に満ちた生涯を送ることはできないと悩み、悲しんでいます。なぜでしょう？その理由は、神がうそをついているのではない、神が約束を実際に現実のものとする力がないからでもありません。原因は私たちが神がしなさいと言われることをしないことにあるのです。そこに問題があるのです。パウロがこのピリピ人への手紙の最後に命じることば、それがそのことをはっきり教えています。パウロは言います。「あなたがたが知っていること、見たことを実践しなさい」と。

今朝、私たちは9節の前半の部分に焦点を当てて、私たちが平安な生涯を送るために何をして行かなければいけないのかということ、もう一度見て行きたいと思えます。パウロは言います。実践しなさいと。私たちがこのことを学んで行くときに気付かなければいけないのは、私がしないといけないということです。そして、私たちが希望を持ちたいことというのは、神が私たちに「しなさい」と言うことを私たちが行なって行くときに、私たちの生涯は神が約束するような平安に満ちた人生に変わって行く

ということです。そのような人生を生きたいです。みことばを見て行きましょう。

4:4 いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。

4:5 あなたがたの寛容な心を、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。

4:6 何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。

4:7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

4:8 最後に、兄弟たち。すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。

4:9 あなたがたが私から学び、受け、聞き、また見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神があなたがたとともにいてくださいます。

私たちはこれまで平安に満ちた生涯を送るために、まずどのような必要条件があるのかということを見てきました。4-6節にそのことが記されていました。私たちが聖書的な喜びをもつときに平安に満ちた生涯を送る準備ができるのです。私たちが寛容な態度を人々に示して行くときに平安な生涯の準備ができます。私たちが人生に起こるあらゆる事柄に対して正しい対応をして行くときに、思い煩うのではなくて、祈りによって神の前にその必要を明け渡して行きます。そのときに私たちは平安な人生を送る条件が整って行くのです。そして、2番目に神が約束してくださっている平安について見ました。7節に書かれていました。そのように準備ができている人に神はまちがいがなく神の平安を与えてくださると。そして、前回この箇所から学んだとき、私たちは神が与えてくださっている平安を変わず持ち続けて行くために、一体何をしなければならないのか、平安に満ちた生涯の実践ということを見ました。そこで私たちがパウロに教えられたこと、それは私たちが正しい考えをもつことが平安に満ちた人生を送るためのカギであることです。8節でパウロは言いました。「心に留めなさい」と。このことばは「考える」とか「計算する」「評価する」という意味です。パウロは「**すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値すること**」、これらのことをしっかり考え吟味し、正しく評価しなさいと言ったのです。そして、それに基づいてあなたの人生を生きて行きなさいと。残念ながら、罪にある私たちは正しい考え方をすることが困難な存在です。いろいろな事が起こると私たちは感情が先に立ってしまって、私たちが正しくみことばに沿って考えることを困難にします。何か問題が起こったとき、私たちが神の前に正しく、これも私の成長のために神が備えてくださったものであるから、神の前に希望をもちますと考えることよりも、どうしよう、こんな大変なことが起こったとパニックになり不安を覚えるのです。なぜなら、神が言われているみことばに沿って正しく物事を考えることができないからです。こんな大変なことが起こって私はもうこの先、生きて行くことができないと思ったとき、私たちは正しく物事を考えていません。なぜなら、どのような大変なことが起こっても神はそれに打ち勝つ力をもっている、そのことをみことばを通して知っているのです。けれど、私たちはなかなかそのように考えることができない、だからパウロは言うのです。すべてのことをしっかり考えてそれに基づいてあなたの人生を歩んで行きなさいと。それをするとき私たちは平安を持つことができる、持ち続けることができると言ったのです。私たちがみことばに沿って正しく考えるなら「神は最善をなされる」と心から言えるのです。それが平安な人生の秘訣であると学びました。

☆ 平安に満ちた人生を送って行くためのカギ

2番目にパウロが教えようとする事、それを今日見て行きたいと思えます。9節の前半部分のところ。1番目のカギは「私たちが正しい考えをもつ」ということでした。2番目のカギは

2. 私たちが正しい人生を歩んで行くこと

正しく考えるだけでは十分でない、パウロはそのように言っています。正しく考えることは必要で、それがなければ次が生まれてきません。けれども、正しい考え方をするなら私の人生は平安に満ちるのか、そうではありません。私たちはその考えに基づいて生きなければいけないのです。パウロが言うことを簡単にまとめるなら、聖書的思考を持つならそこには必ず聖書の行動が生まれてくるということです。そして、それこそが私たちが平安に満ちた生涯を送るカギであると言います。私たちはいくらかでも考えることはできます。しかし、どれだけ考えても実際にそのことに基づいて生きることがなければ私たちは決して変わることがありません。平安に満ちた生涯というのは、私たちが神の基準に従って従順な生き方を送って行くことがなければ、得ることができないものではないのです。そのことはパウロがここで命じていることばからはっきり見て取ることができます。パウロは「実行しなさい」という命令を与えています。このことばは私たちが継続的に繰り返し行動を取って行くことを表わします。「行なう」

と訳すことのできるギリシャ語はたくさんあります。けれども、その中でパウロは「実行する」と訳されていることばを選んで使いました。なぜなら、このことばが持っている意味の中には、その行動によってもたらされた結果よりも、行動自体を表わす部分が強調されているからです。英語の辞書では「実行する」は practice と訳されることがあります。「練習する」ことです。結果が問題ではなくその行動の繰り返しが問題なのです。あなたはその行動を取り続けなさいと。

では、いったい私たちは何を実行して行くのでしょうか？何をやり続けることによって私たちは平安に満ちた生涯を得て行くことができるのでしょうか？パウロは二つのことを教えています。

●平安な生涯を歩むために私たちが取らなければいけない行動とは？

(1) 聖書が教えることを行なう

パウロはこの「実行しなさい」ということばに四つのことばを続けています。「**あなたがたが私から学び、受け、聞き、また見たこと**」と、それを実行しなさいと言います。多くの注解者たち、また学者たちが同意することは、この四つに事柄は二つのグループに分けることができると言います。私もその通りだと思います。(A) 学び・受ける (B) 聞き・見る、です。

●聖書の教えに沿って生きる＝「学ぶ」と「受ける」ということばは非常に近い意味をもっていることばですが、強調点が少し違うのです。「学ぶ」ということばは主に指示、指導を受けて、教えを受けてある事柄を学ぶことで、「受ける」は単に受けるという動詞なのですが、それに伝承されて行く、宣べ伝えられ、それが受け継がれて行くという意味があり、そのようなことを表わすときに使われることばです。Iテサロニケ2：13を参照するとそこにもそのような概念が出て来ます。「**こういうわけで、私たちとしてもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたは、私たちから神の使信のことばを受けたとき、それを人間のことばとしてではなく、事実どおりに神のことばとして受け入れてくれたからです。この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いているのです。**」と、神のみことばが伝承されていったのです。この二つのことばを合わせることによって、パウロはここでピリピの人たちに対してパウロ自身が彼らに教えたことを表わそうとしているのです。パウロが教えたことには公の場で人々に語ったこともあれば、個人個人にいろいろな場で語って教えたことも含まれています。新約聖書が完成する前、人々は神のみことばをどのようにして学んだでしょう？クリスチャンとして生きて行くための正しい歩みを、人々はどのようにして知ったのでしょうか？神はだれを用いたのでしょうか？使徒を用いられたのです。その中でも、パウロは異邦人の中であって神のみことばを人々に継承して行く、それを伝え教えるために用いられた人物です。つまり、これら二つのことばを通してパウロがこのピリピの手紙の中で書いたこと、また、彼がピリピの人たちと直接会って時間を過ごして語っていたこと、それらを指して言っているのです。そして言います。あなたがたが聞いて読んで学び言い伝えられてきた、その神のみことばに沿って実践しなさい、生きて行きなさいと。

9節の冒頭には日本語には訳されていないことばが原文には記されています。それは関係代名詞で、8節にある「**すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値すること**」を受けて「それらのことがらに関して」ということばです。つまりパウロは、この8節にあることをあなたたちは学び、それらを受けてきたからそれを実践しなさいと言っているのです。考えるだけでは十分ではないのです。パウロは言います。考えなさい、あなたたちは何が正しいのか分かっているでしょう、何が真実なのか知っているでしょう、聖書は何がすばらしいことで何がきよいことか教えているでしょう、だからそれに沿って物を考えなさい、そして、私が教えてきたようにあなたが学び、受けてきたことを実践して行きなさいと。私たちの多くは残念ながら、平安に満ちた生涯を送ることができずにいます。多くの場合、そのような平安に満たされて生きる時間が短いのは、私たちがそれを願っていないからではありません。私たちは皆願っています、心に安らぎがほしいと。また、そのような人生を歩むことができないのは、私たちがどうすればその歩みができるのかを知らないからでもありません。私たちはみことばを通して学んでいます。皆さんはピリピ4：6-7を暗唱することができるはずです。何度も読んでいますからです。どうすれば平安が得られるのか知っています。その他にもたくさんみことばを知っています。それでも私たちが平安に満ちた生涯を送ることができないのはなぜでしょう？それは、その真理を思うことはあってもそのように生きて行かないからです。知っているというその知識に基づいて正しい行動を取り続けられないからです。何が正しいのかを知っていること、それだけでは十分ではありません。それが実際に私たちの行動に現われてこなければ私たちのうちに変化は起こらないのです。神のみことばの真理を私たちがしっかり学び受け、それを知って行くことは、非常に重要なことですが、その知識だけで私たちが変わって行くと思うのは大きな誤解です。その知識は私たちが変化して行くことに助けになります。私たちの変化の基礎です。けれども、私たちが実際にその基礎に基づいて生きて行かなければ、その上に家を建てて行かなければ私たちはそのうちに住むことはないのです。神は私たちに必要なことを

教えてください。そして、私たちはそのことを知っているなら実践して行くべきです。多くの場合、私たちが願っていることというのは、神が私たちのために願っていることとは異なることが多いです。たとえば、私たちはある時、この人を憎みたいと思うことがあるかもしれません。神は愛しなさいと言われていてもかかわらず…、また、私は希望を持つことができないと言います、神はできると言われているのに…。そのときに、私たちには選択があるのです。皆さんは現在の状況の中であって、私がしなければいけないと感じていることに基づいてあることをするか、この状況の中で神がこれをしなさいと言われることに基づいてそれをするか、それが皆さんの選択です。パウロはあなたが学び受けてきたこのみことばの真理のとおりあなたは生きなさい、選択しなさいと言うのです。

4節のところを学んだとき、私はある一人の人物のことを話しました。4節では「いつも主にあって喜びなさい。」とされています。もし私たちがこんな状況の中で喜ぶことなどできないとするなら、私は真理を実践しないという選択をしているのです。喜びをもたないという選択です。スパッフォードは大変な試練の中で、たとえ私の受ける分が何であったとしても私のたましいはすべてが万全であるということを知っている、あなたは私にそういうことができるように教えてください、だから、彼は学び受けたことを実践したのです。その状況の中で自分の感情に流されて神に不平不満を言う代わりに、神さま、あなたのみことばは真実です、なぜこのような状況に置かれるのか分からないけれど、私はあなたが行なわれることは最善であること、すべては万全であると知っていると、そのように言うことができますと言ったのです。このような選択をした人は他にもたくさんいます。みことばを見ても溢れています。教会の歴史を見てもこのような人はたくさんいます。彼らは学んだことに基づいて選択をしたのです。神の約束を信じるなら、彼らの心の中には間違いなく平安がありました。

(2) 神の前に敬虔に正しく歩んでいる人の模範に沿って歩んで行く

●パウロの模範に倣う＝「聞き・見る」、これはパウロ自身の生き方について話がされているところです。「聞く」ということばを耳にすると、教えを聞いたというように思うかもしれませんが、ここでパウロがいうのは、他の人たちがパウロについて語ったことばについて話をしているのです。つまり、パウロがどのような人物なのかを聞き、彼らがそれを見たということです。特にピリピ1：30にはこれとまったく同じ形でこの二つのことばが使われています。パウロはこのように言います。「あなたがたは、私について先に見たこと、また、私についていま聞いているのと同じ戦いを経験しているのです。」と、パウロがどのように生きていたのかを見て、聞いていたのです。間違いなくピリピの人たちはパウロがどのような人生を歩んでいたのかを耳にしていました。パウロが救われる前はどのような生き方をしていたのか、救われてからどのように変えられていったのか、どのような苦しみを経験し、困難に会い迫害に会ってきたのか、知っていました。実際に今パウロがこの手紙を書いている状況がどのようなであったのか、彼らはそれを耳にしました。テモテ、エパフロデトがそれを語ったのでしょう。また、彼らは何よりもパウロ自身がどのような思いをもって彼らのために働きをなしたのかということを目の当たりにしました。パウロは自分が教えていたその神のみことばに沿って正しく歩もうとしていた人物であることをピリピの人たちは知っていたのです。このことばを読むとき思い出します。パウロがもうすでに語ったことを…。3：12-17「私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕えようとして、追求しているのです。そして、それを得るようにとキリスト・イエスが私を捕えてくださったのです。：13 兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕えたなどと考えることはありません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、：14 キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。：15 ですから、成人である者はみな、このような考え方をしましょう。もし、あなたがたがどこかでこれと違った考え方をしているなら、神はそのこともあなたがたに明らかにしてください。：16 それはそれとして、私たちはすでに達しているところを基準として、進むべきです。：17 兄弟たち。私を見ならう者になってください。また、あなたがたと同じように私たちを手本として歩んでいる人たちに、目を留めてください。」「私を見ならう者になってください。」と言います。なぜこのようなことを言ったのでしょうか？それはパウロが完璧だったからではありません。けれども、パウロが自分の知っている真理に基づいて、目的地を目指して、いつの日かキリストに似たものとなる、その復活のからだにあずかる日を夢見て、そのために正しいことを一心に為して行こうとしていたからです。私たちには模範が必要です。私たちは自分の人生をなぞって行くことができる、そのような模範が必要なのです。実際にこれはキリストご自身が行なったことです。イエスは真理を教えられました、弟子たちと3年半の間寝食をともにしながら、イエスは自らの模範をもって真理の実践を彼らに教えたのです。それが顕著に現わされているのがヨハネ15：12にあることばではないかと思えます。十字架にかかって行くその前の晩、イエスは2階の席で弟子たちに対していくつかの大切なことを教えました、その中でイエスは一つの命令を彼らに与えています。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。」と。イエスは「互いに愛し合いなさい」という真理を

伝えました。いったいこれをどのように実践するのでしょうか？弟子たちは戸惑ったのでしょうか？いいえ、「**わたしがあなたがたを愛したように**」とイエスは言われました。イエスがもうすでに模範を示してくださったのです。どのように私たちは愛することができるのか、愛するべきなのかということイエスはご自身の生活をもって弟子たちにはっきりと示してくださったのです。弟子たちはその愛を受けたのです。

確かに、私たちははっきり口に出して言わないことかもしれませんが、聖書が与えている命令は実践することが不可能だと考えているかもしれません。その人たちは、神は私たちの能力以上のことを私に求めている、だから、聖書の命令はすばらしいけれど私にはできないと。その人たちは聖書を読むときに、口では「いつも主にあって喜びなさい」と読んでいながら、実際に心の中では私にできるかぎりにおいて喜んでいなさいと読み替えているのです。これらの人たちは私はこの命令を守ることができなせんと考えます。なぜなら、実際にいつも喜んでいの人を見たことがないからです。だれも周りにいなければそれは無理だと思っても仕方ないでしょう。だから、その人たちは言います。このように「いつも」というのは強調しているだけであって、喜ぶことがすばらしいと教えているだけで、いつも本当に喜んでいることを教えているのではないと勝手に解釈するのです。他の人たちはもしかすると、このような命令を守ることが不可能だと思わないかもしれないが、一体どのように心の痛みや不安、恐れを悲しみを横において喜びをもって生きて行くのかをよく分からないのかもしれませんが、確かに、私たちはみことばを通して、いろいろな学びの中で、どのようにすればそのようになれるのかということを目にしながらも、それを実践して行くことを止めてしまう、あきらめてしまうのです。なぜなら、変わって行かないから。このような人たちは一生懸命頑張るのですが、けれども、実際にその頑張るって行く成果を上げた人たちを知らないゆえに、どのようにすればよいのか分からないのです。どちらの場合においても、間違いなく言えることは私たちの周りに模範がないということです。それが問題なのです。

もう一つ残念なことは、たとえそのように生きている人がいたとしても、私たちは言い訳をします。あの人は立派な信仰者だからそのようにできる、でも私はまだまだ無理、そんな喜びをもつことなどできません。しかし、それは言い訳ではありません。成熟した人は救われた最初からそのようであったわけではありません。成長していったのです。みことばに基づいて正しく生きて行こうと実践し、自分を鍛え神に忠実に歩いていった結果、困難が襲ってきたときにも言いことができたのです、私は喜べる、私は信頼できると。神は信仰の成熟度に応じてその基準を変えることはされません。パウロは言います、私がどのようにして生きてきたかを見てください？聞いたでしょう？真理に従って生きてきたその歩みをあなたも実践しなさいと。皆さん、今皆さんが持っている生活の中にクリスチャンとしての歩みの模範となる方をもっていますか？この中でいったいどれだけの人がパウロが歩いたように、一生懸命主に忠実に歩いて行こうとするその模範になる方を持っている人がいるのでしょうか？もしそのような模範がないとしても落胆することはありません。私たちの前にはみことばがあります。ここにはそのような模範となる方があふれています。旧約にも新約にも。けれども、同時に私たちが一生懸命探して行かなければいけないのは、今私たちと同じこの生活環境の中であって、神の前に正しく歩もうとしている人たちです。そのような人を見つけることが必要なのです。そして、その人たちの模範に倣って行くことが必要なのです。いったいどのように彼らが考え、行動し、どのように自分の感情を支配し、どのように困難に立ち向かい、どのように自らの罪を認めそれを悔い改め、神の前に立ち返って行くのかを、私たちは模範を通してしっかり学んで行かなければいけないのです。その人たちに質問してください、どうすれば神の前に敬虔に歩いて行くことができるかと。私たちがそれをするとき、私たちは正しい道を歩むようになります。模範に沿っているからです。そして、神の平安が与えられるのです。

パウロは言います。みことばを実践しなさい、みことばに沿って歩んでいる人たちの模範に倣って歩みなさいと。クリスチャンの生涯というのは弟子として生きる生涯です。私たちは神が命じていることをしっかり知らなければいけないし、その命令に従って歩んでいる人たちの模範に倣って生きて行こうとしなければいけません。キリストはそのことを弟子たちにされたのです。弟子たちはイエス・キリストが神の前に正しく従順である敬虔なその生涯を目の当たりにし、それに基づいて自らの生涯を形作って行きました。彼らも完全ではありませんでした。パウロが3：12で言ったように、私は到達したわけではないのです。でも、いつかそこに行けるようにと一心に走っているから、私を見習いなさいとパウロは言ったのです。パウロは学んできたこと、教えられてきたことをしっかり実践して生きようとしたからです。彼は、みことばの真理を自分の生涯に適用しようとするに関して怠け者ではありませんでした。彼自身にはたくさん問題がありました。肉体的にも精神的にも…。いろいろな困難がありました。絶望するようなこともあったかもしれません。教会の人たちのことを考えて涙を流したこともありました。疲れ果てたこともあったでしょう。どうすればいいのかと思ひ悩んだこともあったでしょう。迫害があり追いやられました。皆さん、パウロはスーパークリスチャンではありません。彼は私たちと同じように、神の恵みによってのみ救われ、聖霊によって変わって行くための力を授けられた一人

の罪人でしかないのです。では、なぜこのように違うのでしょうか？私たちとパウロと…。パウロはみことばの真理に則して生きたのです。そして、彼は言います。私たちも彼と同じようにみことばの真理に則して生きるなら、彼の模範に倣って、また、彼のように神の前に正しく歩んで行こうとする人たちの模範に倣って生きるなら、私たちもそうなれると。人々が真理をしっかり生きて行く、その模範に私たちが倣って行くときに、彼らが犯す罪は私たちを警告します。彼らがもつ罪を犯したときの嘆き悲しみは、私たちにどのような心の態度を持つべきなのかということをはっきり教えてくれます。彼らがもつその悔い改めは私たちがどのように罪から立ち返ればいいのかを教えてくれます。彼らがもつ信仰は私たちの励ましとなり、彼らが教える真理は私たちの導きとなります。

私たちは真理を知らなければいけません。そして、真理を歩んで行く人たちを見つけて行かなければいけません。そのように私たちが歩んで行くとき、私たちも必ず模範とされる人物へと変わって行きます。もし皆さんが今からそのような歩みを始めるなら、神が約束し保証することですが、皆さんの心には平安に満ちたすばらしい喜びと感謝がどんなときにも溢れ流れています。そのような人生を送りたいです。やらなければいけないのです。学んだことを、模範に倣って生きて行くことを。